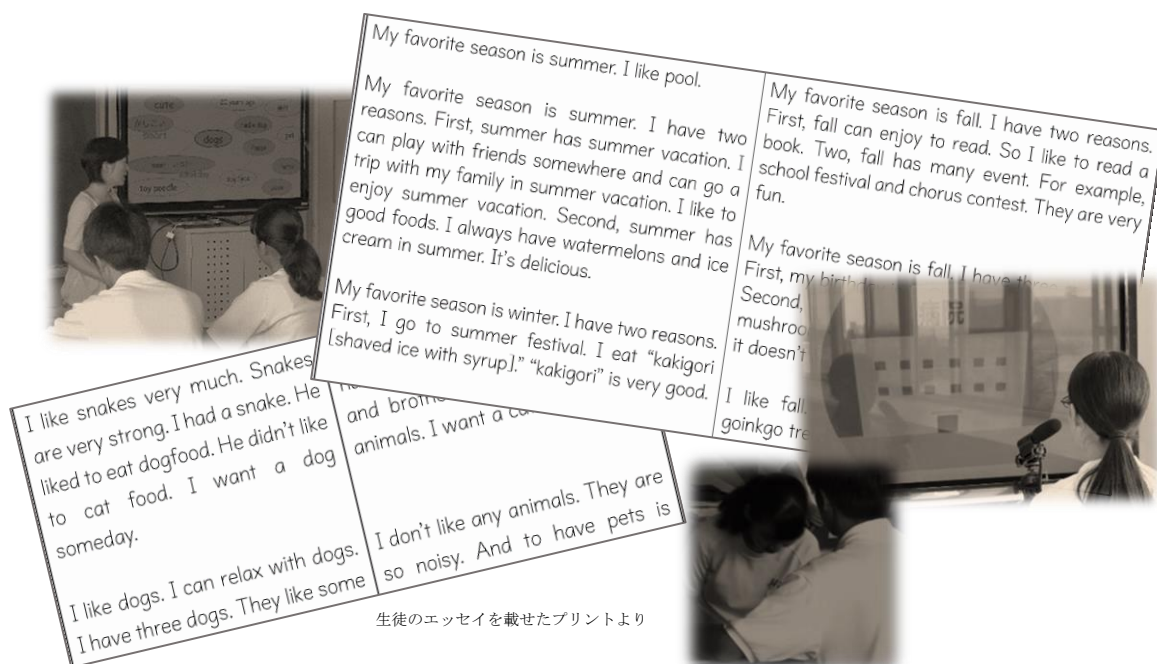


中学校における4技能習得のための授業改善

～新学習指導要領をふまえて～



目 次

I	はじめに	19
II	研究の概要	20
1	研究の動機	
2	研究の目的と内容	
3	研究の方法	
III	事前調査について	22
1	事前調査の内容	
2	事前調査の分析と考察	
IV	授業実践について	24
1	授業実践の内容	
2	授業実践の分析と考察	
V	事後調査について	29
1	事後調査の内容	
2	事後調査の分析と考察	
3	アンケート調査の分析と考察	
VI	研究の成果と課題	35
VII	引用・参考文献	36
VIII	資料	38

I はじめに

近年、社会の状況はグローバル化及びAIの進化とともに激変し、外国語によるコミュニケーション能力を身に付け、急速なグローバル化に対応できる人材が求められている。平成30年に刊行された中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省，2018）でも、「外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題とされている」と述べられている。

これらの社会の変化を鑑み、小学校学習指導要領（平成29年告示）第10節外国語では、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指している。また、中学校学習指導要領（平成29年告示）では、第2章 第9節 外国語 第1 目標の(1)で、「実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。」としている。つまり、中学校では、小学校で養われてきた基礎となる資質・能力をさらに育成し、実生活の必要な場面で活用できるようにすることが求められている。

また、平成28年12月に発表された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会，2016）で指摘された、学校種間の接続が十分ではない、中・高等学校では文法・語彙等の習得に重点が置かれた授業、「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていない等の課題を背景に、中学校学習指導要領（平成29年告示）および中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省，2018）では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の4技能から、国際的な基準であるCEFR（セファール）※を参考にして「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域で英語の目標を設定した。平成30年6月には、「教育振興基本計画」が発表され、英語力に関する測定指標を中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当以上を達成した割合を5割以上にすると提示されている。

このように、中学校学習指導要領（平成29年告示）がCEFRを参考に目標を設定したことは、国際基準に沿った英語力の育成を目指していると言える。さらに、「話すこと[やり取り]」が加わったことで、他者とのコミュニケーションに焦点を当てて指導することと、理解し表現し伝え合うという双方向のコミュニケーション能力の育成に重点を置いていると言える。

さらに、中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省，2018）では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることで、コミュニケーション能力を図る資質・能力も育成されると述べられているが、外国語で他者とコミュニケーションを行う際には、目的や場面・状況等に応じて情報を整理し、相手に対して配慮をしながら、使用すべき適切な語彙や文法を思考・判断するとともに、自分の思いや考えを音声や文字で伝え合うことが重要であることを示していると言える。

急速なグローバル化に対応できることが求められている社会では、このような見方・考え方を豊かにしながら、外国語を学んで身に付けてきたことや外国語を使って何ができるかを主体的に考え、かつ行動できる人材を育てることが大切である。

※ CEFR：言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準（ブリティッシュカウンシル，2018）

Ⅱ 研究の概要

1 研究の動機

文部科学省が平成 27 年に発表した「生徒の英語力向上推進プラン」（文部科学省, 2015）では、生徒の英語力に関する目標設定として、「平成 25～29 年度に中学校卒業段階で実用英語技能検定（以下英検）3 級程度以上を達成した割合を 50%、平成 32 年度には同 60%にする」とされている。この「生徒の英語力向上推進プラン」に基づき、文部科学省が中学校 3 学年を対象に行ってきた「英語教育実施状況調査」（文部科学省, 2018）の平成 29 年度結果では、英検 3 級以上取得及び英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は、全国で 40.7%、三重県では 35.3%、津市では 37.4%となっており、津市の状況は、文部科学省の掲げる目標値には達していない。

従来の授業では、言語材料（文法や語彙）を習得するための口頭練習や何かの役になりきって行う会話練習を通してコミュニケーションの場を設けようとするものが多かった。しかしながら、これらの活動では自分の気持ちを既知の言語材料でどうすれば伝えられるかを思考したり、実際に即興で発信したり、相手に配慮しながら互いの気持ちを口頭や文面で伝え合ったりするには十分ではなかった。これらのことから、生徒が実際の気持ちや考えを伝え合いたくなるよう工夫した言語活動を行うことにより 4 技能 5 領域を高めていくことができるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

2 研究の目的と内容

本研究は、生徒の生涯にわたる日常生活において英語力を活用できるようにするためには、生徒の 4 技能 5 領域にまたがる英語力を向上させることが必要であるとの考えのもと、授業にどのような工夫・改善を行えばよいのかを具体的に提示することを目的としている。

平成 30 年 8 月に「第 42 回東海北陸公立中学校英語教育研究会石川大会」が開催された石川県では、平成 29 年度「英語教育実施状況調査」（文部科学省, 2018）の結果で、英検 3 級以上取得及び英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は県全体で 50.2%と高い割合となっている。石川県金沢市中教研英語部会の発表によると、金沢市では、全教科で「金沢型学習スタイル」を取り入れている。そのスタイルとは、「めあてをつかむ」、「自分で考える」、「伝え合う」、「深める」、「自分の言葉でまとめる」といった授業構成で、生徒の言語活動を充実させるよう、工夫を重ねているものである。そして、そのスタイルをベースに英語科では、「4 技能の総合的な育成を目指した授業づくり」を行い、実際のコミュニケーションにおいて活用できる能力の育成に取り組んでいる。例えば、「話すこと」と「書くこと」の 2 つの技能の統合と金沢型学習スタイルを合わせた授業を継続的に行っており、この取組の中で、教員は実践を通して課題を見つけては、中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省, 2018）と関連づけた授業改善を図り生徒の英語力を向上させている。意識調査等での生徒の実態把握までは行っていないが、技能統合と他者とのかかわりを持つ学習は効果があると明らかになっている。

筆者自身の授業実践では、中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省, 2018）をふまえながら、金沢市の実践発表で参考になった次の点を授業に取り入れ、他者とのかかわりを持ち 4 技能 5 領域にまたがる言語活動を通して生徒の英語力の向上を目指す

とともに意識の変容を検証する。

- ・ 自分の考えを書いたり、話したりする場を設ける。
- ・ 「話すこと [やり取り]」を取り入れ、他者とのかかわりから学び、自分の考えを深めさせる。
- ・ 実際のコミュニケーションを想定し、自分の考えや気持ちを表現するために、即興の場面を設定する。
- ・ 即興の場面は「話すこと [発表]」及び「話すこと [やり取り]」にも取り入れる。
- ・ 言語活動→指導（モデル文提示等）→再度言語活動の授業構成の充実を図る。

具体的には、協力校の教科担任が行う通常の授業と並行して、筆者が15分間の帯活動で、英検の過去問題のうち、スピーキングテスト（見本）とライティング問題を活用し、実際に自分の伝えたいことを話したり、書いたりするとともに、相手と互いの気持ちを聞き合ったり、読み合ったりする4技能5領域にまたがる言語活動へと発展させ、英語力の向上を図る。言語活動での目的や場面・状況等を工夫することによって、生徒は相手のことを配慮しつつ、自分なりの見方・考え方を働かせ、考えや気持ちを伝えようとし、さらに、間違いや伝わらないことを互いに教え合ったり、調べたりすることで、語彙や文法等の言語材料を自ら習得し、定着することにつながっていくと考えられる。

なお、授業実践の前後に、英検の過去問題を用いて「聞くこと」及び「読むこと」についての調査と筆者自身が作成した「話すこと」及び「書くこと」についての調査を行い、その効果を客観的に測り、授業実践の成果について考察する。

3 研究の方法

研究は次の手順で進める。

- (1) 6月上旬に「聞くこと」及び「読むこと」（英検5級の過去問題）についての調査を行う。
- (2) 7月上旬に英検5級の「Can-do リスト」を参考に作成した「話すこと」及び「書くこと」についての調査を行う。
- (3) 7～8月に、(1)と(2)の結果を分析し、生徒の英語力について実態を把握する。
- (4) 9～10月に、4技能5領域にかかわる授業実践を、毎授業において15分間の帯活動で行う。
- (5) 10月に、「聞くこと」及び「読むこと」（英検5級の過去問題）についての調査と「話すこと」及び「書くこと」についての調査を行う。
- (6) 10～11月に、(1)、(2)及び(5)の結果を比較し、生徒の英語力及び意欲等についての変容を分析・考察する。

授業実践では、4技能5領域で他者とのかかわりを持たせた言語活動を中心に行い、「話すこと [やり取り]」等の言語運用につなげるための会話練習（資料1）や生徒が使用するためのクラスルームイングリッシュ（資料2）を指導する。言語活動には、英検で取り上げられたスピーキングテストとライティング問題を用いる。英検の問題を使うことで、教科書とは違う角度から学習事項を再確認したり、学習事項がどのように使われているかを認識したりする。ただし、単に問題に取り組む活動にならないよう工夫する。そのために、他者とのかかわりを持ち、4技能5領域にまたがる言語活動を行

う。具体的には、スピーキングテストでは、「話すこと」だけでなく、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」につながる言語活動を取り入れ、ライティング問題では、「書くこと」だけでなく、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」につながる言語活動を取り入れる。

このように英検の問題を活用し、また、他者とのかかわりを取り入れた言語活動を充実させることで、4技能5領域の能力を高めていく授業づくりを提案する。

Ⅲ 事前調査について

1 事前調査の内容

(1) 「聞くこと」及び「読むこと」についての実態調査

「聞くこと」及び「読むこと」については、調査を実施する学年が2年生のため、中学1年生修了程度の内容である英検5級の過去問題を使用することとした。全員の解答を集計し、各技能の正答率及び各技能の各項目についての正答率を算出した。

(2) 「話すこと」及び「書くこと」についての実態調査

英検5級の試験内容では、「聞くこと」及び「読むこと」の2技能を測ることができるが、「話すこと」及び「書くこと」は測ることができない。そのため、筆者が作成した問題で調査を行った。問題作成にあたっては、英検5級の「Can-do リスト」を参考にし、具体的な語彙・文法は、協力校の生徒が平成29年度（1学年時）に使用した教科書 NEW HORIZON English Course 1（東京書籍, 2015年検定済）の中から出題した。

① 「話すこと」についての調査

英検5級の「Can-do リスト・話すこと」には、「アルファベット、日常生活の身近な単語や数字を言うことができる。簡単なあいさつをかわすことができる。謝ったり、お礼を言ったりすることができる。日常生活の身近な話題について Yes/No で答える質問に応答することができる」とあり、1学年時の学習内容に基づき、以下のような問題とした。条件の公平と均一化を図るため、ICT機器を使用し、生徒は、ネイティブスピーカーが話す映像に向かって解答し、解答は筆者が録画・録音し、後日採点を行った。

ア 調査内容

- (ア) 英語であいさつをかわす。
- (イ) 英語で名前を聞かれ、それに答える。
- (ウ) 提示された2枚の写真について、ものの名称や時刻を英語で答える。
- (エ) 自分に関して英語で質問されたことについて、英語で答える。

イ 調査時間

生徒一人あたり約40秒間

② 「書くこと」についての調査

英検5級の「Can-do リスト・書くこと」には、「アルファベット、自分の名前、日常生活の身近な単語、数字を書くことができる。アルファベットの大文字・小文字や符号を適切に使うことができる」とあり、1学年時の学習内容に基づき、次のような問題を出題し、後日採点を行った。

ア 調査内容

- (ア) 自分の名前をローマ字で書く。
- (イ) アルファベットを書く。
- (ウ) 日本語を見て「日常生活の身近な単語」及び数字を英語で書く。
- (エ) 文頭を大文字、文末に符号をつけて書く。Yes, I do.にあたる英文では、「 , 」を Yes の後ろに書く。

イ 調査時間

約5分間

2 事前調査の分析と考察

(1) 「聞くこと」及び「読むこと」についての実態調査から

英検5級の過去問題2017年第1回を実施した。実際の英検の合否規準は公開されていないため、英検が「5級の内容は中学1年修了程度で、各技能とも6割程度の正答率の受験者が合格している」とホームページで述べている内容を参考に、生徒の結果を表1のように、A～D群に分類した。

(表1) 事前調査の結果 (175名に実施)

	筆者が推測した合否の見込み	各技能の正答率	割合	人数
A	合格すると見込まれる	聞くこと6割以上 読むこと6割以上	69.1%	121名
B	合格には難しいと見込まれる	聞くこと6割未満 読むこと6割以上	0.6%	1名
C	〃	聞くこと6割以上 読むこと6割未満	13.1%	23名
D	〃	聞くこと6割未満 読むこと6割未満	17.1%	30名
	合計人数			175名

※小数点第二位以下は四捨五入

(注) D群には、白紙及びすべての選択肢に同じ数字を選んだものや思考して解答したとはみられないもの(1, 2, 3, 4, 3, 2, 1・・・などと記入)も含む

協力校の中学2年生1学期段階では、合格すると見込まれる生徒の割合は7割に満たなかった。正答率が低かった問題には、次のような傾向がみられた。

- ・ 文法は学習済みであるが、英文や選択肢に未学習の語が含まれているもの
- ・ 文法及び語彙は学習済みでも、連語(熟語)としては未学習のもの
- ・ 絵を用いたリスニングの問題で、聞き取る英文と絵の内容に関連がないもの

「聞くこと」または「読むこと」のどちらかの技能の正答率が低いために合格は難しいと見込まれる生徒の中で、表のC群にみられるように、「聞くこと」よりも「読むこと」の正答率が低い生徒が23名(13.1%)おり、「聞くこと」は得意でも「読むこと」は苦手という生徒の実態も分かった。

(2) 「話すこと」についての実態調査から

画面に映し出された絵や数字(時刻を言う)について即座に応答する問題では、解答するタイミングに戸惑っている姿がみられた。これは、調査前に、例を見せることができなかったことと説明が明確でなかったことに起因としていと考えられ、事

後調査では説明方法を改善した。また、自分に関する質問では、質問されても黙ってしまう、自分に関する質問に対しての解答は“Yes.”もしくは“No.”のみで答える、“Yes, I did.”と返答すべきところを“Yes, I do.”と答えている生徒が多かった。質問内容を聞き取れない様子や返答があいまいな生徒もみられ、英語で「話すこと [やり取り]」に慣れていないことが分かった。

(3) 「書くこと」についての実態調査から

数字を表す英語を書く問題、示された日本語を英語で書く問題は正答率が低かった。また、enjoy を injoy、enjoi のように綴っているなど音と文字の綴りが一致していないと思われるスペルミスがみられた。さらに、アトランダムに表示したアルファベットを正しく並べ替える問題では、問題文の読み取りミスに起因すると思われる誤答もみられた。

IV 授業実践について

1 授業実践の内容

英検過去問題のスピーキングテストとライティング問題は、両者ともアウトプットの活動であるが、ペアやグループで「話すこと [やり取り]」に加え「聞くこと」及び「読むこと」のインプットの活動も組み入れた。なぜなら、他者の考えや気持ちを聞いたり読んだりすることにより、より良い表現を習得する機会を確保できると考えたからである。また、村野井 (2011) は、「学習者にモデルを示す必要があり、… (中略) … 目標とするモデルがいなければ、果たしてそれが自分にとって可能なことなのかどうか判断することができない。英語使用者としてのロール・モデルが持てれば、あんなふうに話せるようになりたい、あんなふうなら自分にもできるかもしれない、あんな人に近づきたい、という気持ちが生まれる」と述べている。つまり、パートナー間で考えや気持ちを伝え合ったり、クラスメイトが書いたものを読んだりするという他者とのかわり、互いがロール・モデルとなり、言語材料を自ら習得する機会になると考えられる。また、対話的な言語活動が活性化される一つの方法であると考えられる。

(1) 指導計画

基本指導案 (15 分)

過程	時間	学習内容
① ウォームアップ	3分	30 seconds talk 会話練習またはクラスルームイングリッシュを用いて、「話すこと [やり取り]」の基本パターンを練習する。
② 言語活動	10分	英検の過去問題を活用した言語活動に取り組む。
③ 振り返り (随時)	2分	振り返り 本時の学習についてプリントに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ できるようになったこと ・ 気付いたこと ・ 難しかったこと ・ 今後はどう生かしていくか

毎時間の最初に、ウォームアップ（基本指導案①）としてペアでパターン化された会話練習を実施した。なぜなら、事前調査の様子から、まずは英語で「話すこと[やり取り]」の基本に慣れさせることが必要と考えたからである。これは、「アウトプット活動を行う以前に必須となるアウトプット準備活動」（村野井, 2011）として位置づけられる。回を重ねるごとに、プリントに書かれた例に、自分の情報をプラスして返答するようにしていった。さらに、生徒が使用するクラスルームイングリッシュを定着させるための活動も行った。この活動では、“Extra paper. (プリントが余りました)”といった表現の他に、“Could you ～? (～して下さいますか)”、“May I ～? (～してもいいですか)”のように日常生活でも応用して使える表現も含めた。

ウォームアップに続いて行う言語活動（基本指導案②）の指導計画は次の表2の通りであった。

(表2) 言語活動の指導計画

内容	言語活動内容と技能
筆者の自己紹介とそれにまつわる Q&A	聞くこと 話すこと
スピーキング第1ラウンド	英検5級スピーキングテスト（見本） 言語活動トピック What animal do you like?
4回で1ラウンド	聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと
ライティング第1ラウンド	Dr. Writeの英検3級ライティングテストに挑戦! step 1 言語活動トピック What is your favorite season?
3回で1ラウンド	書くこと 話すこと 聞くこと 読むこと
スピーキング第2ラウンド	英検4級スピーキングテスト（見本） 言語活動トピック What do you like to do?
4回で1ラウンド	聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと
ライティング第2ラウンド	英検3級過去問題2017年度第3回ライティング問題 言語活動トピック What city do you want to visit?
3回で1ラウンド	書くこと 話すこと 聞くこと 読むこと
外国語指導助手からのコメントを読もう! 事後調査についての説明	読むこと

随時、言語活動の区切りで、生徒が話したり、書いたりした言語活動について、感想等の振り返りを記入した（基本指導案③）。

(2) 授業実践で取り組んだ言語活動の内容

① スピーキングテストを活用した言語活動

スピーキングテストにはパッセージ（数文の英文）が書かれている。中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省, 2018）では、『「広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章」といったものを教材に取り上げ、読み手である生徒が主体となり、どんな情報を得るために読むのかを意識するなど、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようにする』ことを具体的な目標として述べており、様々な英文を読んで情報を整理する力をつけるためにも、教科書以外の英文である英検のスピーキングテストを活用することが有効であると考えた。

ア スピーキングテストは次のような構成になっている。

- (ア) パッセージの黙読・音読を通して内容を理解する。
- (イ) パッセージの内容に関する事実発問2問（4級は3問）に答える。
- (ウ) 受験者自身に関する質問1問（4級は2問）に答える。

(ア)のパッセージの音読では、相手が理解できるよう発音やスピード、ポーズ(区切り)について聞いている他者を配慮する必要がある。(ウ)の受験者自身に関する質問を活用するにあたり、第2回では、追加で質疑応答をし、第3回では、この質問を初発質問として会話を続けたり、思考を整理するためのマインドマップ(フォスケット・沢田, 2010)を作成して発表をしたり、エッセイを書いたりする等工夫して言語活動を行った。これらの言語活動を通して、単に「話すこと」だけでなく、「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の4技能5領域にわたる言語活動へとつなげていった。また、第1ラウンド終了後、生徒が書いたエッセイをクラスごとにプリントにして配付した。

- ・ 実践例 スピーキングテスト第1ラウンド
5級スピーキングテスト見本を使用

第1回	読むこと	ペア	【受験者役】パッセージを黙読及び音読し、内容を理解する。
	聞くこと	ペア	【面接官役】受験生役の音読を聞いて内容を理解する。
	話すこと [やり取り]	ペア	【面接官役】質問をし、答えの内容を理解する。 【受験者役】質問を聞き、答える。
	〃	ペア	時間が余った場合は、面接官役は追加質問をし、受験者役はそれに答える。
	指導 パッセージの内容と解答の確認	全体	パッセージの内容で分からなかったこと等を確認する。数組のペアが解答を発表し、様々な答え方があることを共有する。 “Yes.”だけでなく、I doを加えて“Yes, I do.”と答えることを思い出す。また、質問を続けていくためのキーワードについて想起する(Why...?、How many...?等)。
第2回	読むこと	ペア	【受験者役】パッセージを黙読及び音読し、内容を理解する。
	聞くこと	ペア	【面接官役】受験生役の音読を聞いて内容を理解する。
	話すこと [やり取り]	ペア	【面接官役】質問をし、答えの内容を理解する。 【受験者役】質問を聞き、答える。
	〃	ペア	設定された質問の他に面接官役は追加質問をし、受験者役はそれに答える。
	フィードバック	全体	前回との変容等のフィードバックを聞く。

	振り返り	個人	2回分の取組についての振り返りを記入する。
第3回	話すこと [やり取り] (即興)	ペア	“What animal do you like?”を初発質問として、ペアで1分間会話を続ける言語活動を行う。
	書くこと	個人	1分間会話を基にエッセイを作成するための準備としてマインドマップを作成する。
第4回	話すこと[発表] (即興)	グループ	マインドマップを基に、口頭で自分の好きな動物についてグループ内で述べる。
	指導	全体	共通の誤り、既習表現を再確認、ふさわしい表現や未習表現も学習する。
	書くこと	個人	エッセイを作成する。

② ライティング問題を活用した言語活動

ライティング問題は、ある質問を外国人の友達に聞かれ、その質問に答えるとともに理由を2つ述べるという構成になっている。第1ラウンドでは、自分の好きな季節とその理由を述べるという英検の設問はそのまま使用するが、生徒がより現実的に読み手を意識して「書くこと」に取り組むことができるよう、今年度津市に赴任した外国語指導助手(以下ALT)に日本での季節ごとの過ごし方や楽しみ方も伝えるようにし、目的や場面・状況等に工夫を加えた。第2回及び第3回を通して、マインドマップやエッセイ作成の前後に、パートナーと英語で気持ちを伝えあったり、他者のエッセイを読んだりして、思考の整理や再構築をしたり、他者から表現を学んだりする取組を行った。また、教科書 NEW HORIZON English Course 2(東京書籍, 2015年検定済)を使って文章構成について学習した。これらの言語活動を通して、「書くこと」だけでなく、「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「読むこと」の4技能5領域を統合した言語活動へとつなげていった。さらに、第1ラウンド終了後に、生徒のエッセイをクラスごとにプリントにし、ALTからのコメントも加えて配付した。

・ 実践例 ライティング問題第1ラウンド

「Dr. Writeの英検3級ライティングテストに挑戦! step 1」を使用

第1回	話すこと[やり取り] (即興)	ペア	好きな季節とその理由を一言でパートナーに伝える。
	指導	全体	発表やエッセイ作成のためのマインドマップの書き方を知る。
	書くこと	個人	ペアでの会話を基にマインドマップを作成する。
第2回	話すこと[発表] (即興)	グループ	マインドマップを見ながらグループ内で発表する。 メンバーからコメントや質問を受ける。
	指導及び読むこと	全体	提示されたモデル文の内容を理解する。マインドマップを基にエッセイを作成する際のポイントを知る。
	書くこと	個人	モデル文やメンバーのコメント等を参考に表現を付け加えたり、自分の表現を変更したりして、エッセイの下書きをする。

第3回	話すこと [発表] ※	グループ	エッセイの下書きを見ながらグループのメンバーに発表する。 メンバーからコメントや質問を受ける。
	指導	全体	理由を述べるときの表現方法についてモデル文と教科書から理解する。共通の誤り、既習表現を再確認、ふさわしい表現や未習表現も学習する。
	書くこと	個人	メンバーの発表及び指導者からの説明を参考に表現を付け加えたり、自分の表現を変更したりして、エッセイを仕上げる。
	振り返り	個人	ライティングの取組について、振り返りを記入する。

※ 第2ラウンド時には、第3回での「話すこと [発表]」を「読むこと」に替え、他者の作品を読み、感想や質問を記入する活動を行った。

2 授業実践の分析と考察

言語活動トピック (p. 25 表2 参照) を変えながら、スピーキングテストとライティング問題を活用した言語活動を2ラウンドずつ取り組んだ。

(1) 授業実践の分析

① スピーキングテストを活用した言語活動から

- ・ スピーキングテストでは、1回目より2回目の方が黙読・音読・質疑応答をスムーズにできるようになった。
- ・ 第2ラウンドのスピーキングテストは4級の問題を使用し、問題数も増えたが、5級よりも短時間で一連の活動ができるようになった。
- ・ 相手に伝わるように、はっきりと声を出すようになった。
- ・ アイコンタクトを意識するようになった。
- ・ 回を追うごとに、生徒自身が上達を感じていること述べた感想が増えた。

② ライティング問題を活用した言語活動から

- ・ 他者の考えを知ることで、自分とは異なる見方や考えを学ぶことができた。
- ・ 自分のエッセイを他者に読んでもらうことで、内容に変化が現れたり、分かりやすくなるよう書き換えたりする等工夫ができた。
- ・ 他者のエッセイから文法を学ぶことができた。
- ・ 書きたい内容はあるものの既習の言語材料も定着しておらず、書けずにいる姿がみられた。
- ・ 語彙は分かるもののどのように英文にしたらよいのか躊躇している姿がみられた。
- ・ 書く内容が思いつかない生徒がみられた。

(2) 授業実践の考察

中学校学習指導要領解説外国語編 (文部科学省, 2018) では、まずは、生徒に言語活動のテーマを与え、生徒自らがその言語活動に必要な表現を既習の言語材料から想起させることが求められている。そして、不正確または不十分な発話や筆記に対して指導し、再度、英語でどのように表現をするのかを考えさせたり表現を探させたり

することが重要であるとされる。授業では、生徒がマインドマップやエッセイの下書きを書く言語活動を行っている間に個別の質問に答えつつ、多くの生徒が共通して間違っている点や表現の仕方に悩んでいる点等筆者が机間指導中に気づいた点を一斉指導したところ、生徒から「ああ、そうか。」という声があがり、生徒自身の気づきにつながった。その後の言語活動では、会話が長続きしたり、既習表現を再習得しようとしたり、文法の正確さを意識したりする姿がみられた。また、パートナー等からコメントや質問を受け、より伝わりやすい表現を探したり、エッセイでは文量が増えたりし、他者とのかかわりから英語の表現を習得する側面がみられた。

生徒の振り返りの感想には次のようなものがあり、口頭や文面で自分の気持ちを伝える言語活動が知識・技能面だけでなく情意面でも有効に働いたことが分かる。

- ・ いっぱい書こうとしてパンダのことを英語で探して楽しかった。自分の中で分かっている相手には伝えるのが難しいなと思った。
- ・ 英語で自分のことをスラスラ書けるとスッキリして、楽しかった。
- ・ マインドマップを見ながら話すとももない状態で話すよりもやりやすかった。エッセイを書くのもマインドマップがあったので結構書けた。
- ・ 身振り手振りをして、もう少し自分の感情を表現しようと思った。
- ・ 伝えたいことをどう伝えたらいいのかが分からなかったが、友達の見いなどを取り入れて文をつくることができた。

しかしながら、第1ラウンドのライティングの言語活動中に、言語材料(語彙や文法)が定着しきれていない生徒は活動が止まることがあった。「生徒の状況によっては、デモンストレーションやモデル文を最初に提示することが有効となる」(滝沢, 2018)こと、筆者の持ち時間が約15分であること、指導回数も限られていることから、第2ラウンドからは、マインドマップやワークシートに手がかりとなりそうな言語材料を提示することとした。これが支援の必要な生徒にはヒントとなり、意欲をそぐことなく言語活動に取り組む姿がみられ、「お助けwords & sentencesを参考に書くことができた」、「単語の順番(語順)を確認することができた」のような生徒の振り返りからも有効であったことが分かる。

V 事後調査について

1 事後調査の内容

- (1) 「聞くこと」及び「読むこと」についての実態調査
英検5級の過去問題2017年度第2回を使用した。
- (2) 「話すこと」及び「書くこと」についての実態調査
事前調査と同様の理由により、筆者が作成した問題を行った(pp.22-23参照)。
調査内容については、事前調査と形式は同様で、質問については若干変更を加え、事前調査で正答率が低かった問題も出題した。
調査時間は、事前調査と同様である。

2 事後調査の分析と考察

(1) 「聞くこと」及び「読むこと」についての実態調査から

事前調査との比較を表3に表した。分析及び考察は次のとおりである。

(表3) 事前調査との比較表

	筆者が推測した合否の見込み	指標	事前	事後	増減比 ※
			割合	割合	
			人数	人数	
A	合格すると見込まれる	聞くこと 6割以上	69.1%	74.9%	5.7%
		読むこと 6割以上	121名	128名	
B	合格には難しいと見込まれる	聞くこと 6割未満	0.6%	1.2%	0.6%
		読むこと 6割以上	1名	2名	
C	〃	聞くこと 6割以上	13.1%	12.3%	-0.9%
		読むこと 6割未満	23名	21名	
D	〃	聞くこと 6割未満	17.1%	11.7%	-5.4%
		読むこと 6割未満	30名	20名	
合計人数			175名	171名	

※小数点第二位以下は四捨五入

(注) D群には、白紙及びすべての選択肢に同じ数字を選んだものや思考して解答したとはみられないもの(1, 2, 3, 4, 3, 2, 1・・・などと記入)も含む

- ・ A群の割合が5.7%増加し約75%に向上した。
- ・ D群の割合が5.4%減少し11.7%に留まった。
- ・ A群へと向上した生徒のうち、B群から向上した生徒が1名、C群から向上した生徒が6名、D群から一気にA群へと向上した生徒が5名いた。また、D群からC群へと向上した生徒が7名いた。
- ・ 事前調査より低下した生徒もおり、A群からB群へと低下した生徒が1名、A群からC群へと低下した生徒が1名、C群からD群へと低下した生徒が4名いた。
- ・ 平均正答率を事前調査と比較すると、「聞くこと」では80%から85%に、「読むこと」では72%から76%に、中央値も「聞くこと」では88%から92%に、「読むこと」では80%から88%にそれぞれ向上した。

これらの結果と授業実践との関連を考察すると、毎時間、ペアで会話をする事により、相手が完璧な英語ではなくとも何を言おうとしているのかを察したり、分からない言葉が出てきても前後の関係から推測したりすることで、「聞くこと」についての力がついたと考えられる。

「読むこと」においても同様のことが考えられる。モデル文で内容を理解しようと努めたり、プリントで配付したクラスメイトのエッセイを読み、完璧な英語ではなくとも何を言おうとしているのかを察したり、分からない言葉が出てきても前後の関係から推測したりすることで「読むこと」についての力がついたと考えられる。

(2) 「話すこと」及び「書くこと」についての分析と考察

① 「話すこと」についての実態調査から

事前調査と比較すると、次のような結果が得られ、特に自分自身についての質問に答える問題で大きな変化がみられた。

ア 無解答率が“Do you ～ ?”型で17%減少、“Did you ～ ?”型で4%減少した。

イ “Did you ～ ?”型では、“Yes.”のみでなく、“Yes, I did.”と助動詞まで加えて解答できた生徒が16%増加した。

ウ “Do you ～ ?”型では、“Yes, I do.”と助動詞を加える生徒が22%増加した。

エ “Do you ～ ?”型では、“No, I don't. I don't have pets.”のように、“Yes”、“No”の後に、質問内容のリピート的な一文を追加できた生徒数はほぼ変わらなかった。

オ “Do you ～ ?”型では、“Yes”や“No”に加えて、“Yes, I have a cat.”や“No, but I like dogs.”のように具体的な情報を付け加えて返答した生徒が3%いた。

これらの結果と授業実践との関連を考察すると、イ～オにみられるように、事前調査より解答内容の質が向上した。これは、授業実践の中でのウォームアップや言語活動を通して行った次の取組が有効であったと考えられる。

- ・ 英検を活用した学習の中で“Yes.”のみのショートアンサーから“Yes, I do.”のようなロングアンサーを目指す練習に取り組んだこと。
- ・ 初発質問から会話を続ける練習に取り組んだこと。
- ・ ウォームアップの会話練習で“Yes.”や“No.”だけでなく、情報を付け加えて返答するステップアップの練習にも取り組んだこと。

これらのことから、返答内容が、“Yes.”のみからイ及びウの解答へ、イ及びウからエ及びオへと改善し、「話すこと」の基礎定着及び強化につながったと考えられる。

② 「書くこと」についての実態調査から

事前調査と比較すると、次のような結果が得られた。

ア 日本語を見て英単語で記入する問題や英文のルールに関する問題で、無解答率が減少した。

イ 授業実践で使われることが多かった語彙に関して、正答率が高くなった。

ウ 文頭は大文字で書き、文末には符号をつけることを問う問題の正答率が高くなった。

エ 日本語を見て英単語で記入する問題で誤答率が若干高くなった。

オ アルファベットを書く問題で誤答率が高くなった。

これらの結果と授業実践との関連を考察すると、アに関しては、自分で英文を書く時間が増えたことにより、「書くことが苦手」という意識が低くなったと考えられる。このため、エのように「書こうとしたが、定着にはいっておらず、スペルミスに至った」という状況も同時に現れたと推測される。例えば、**food**を

hood, fuud, foud のように綴るミスが事前調査より増加していた。これは、food を音声技能における受容語彙かつ発信語彙として習得しているものの文字技能における発信語彙としての習得までは至っていないと考えられる。イに関しては、ライティング問題を活用した言語活動を通して語彙を習得したと考えられる。ウに関しては、エッセイを返却する際に、英文のルールが適用されていない箇所にアンダーラインを引いたことと、事前調査を個々に返却する際に「英文の最初は大文字か？小文字か？文末には何をつけるのか？」等とコメントしたことで生徒自身に気づきが生じ、定着につながったと考えられる。オに関しては、事前調査と同様に、アトランダムに表示したアルファベットを正しく並べ替える問題において、問題文の読み取りミスが原因と思われる誤答がみられた。

言語活動のベースは「書くこと」でありながらも、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「読むこと」の言語活動も行い、他者とのかかわりを取り入れたことが有効であることが以下の生徒の感想から分かる。

- ・ 相手のライティング作品を読むことで新たに言語材料を学ぶことができた。
- ・ 相手から感想や質問をもらったりしたことで、自分のライティングに生かすことができた（内容の具体化や変更、文量の増加等）。
- ・ スラスラ言えるようになり、仕上げではしっかりと書くことができた。
- ・ 相手の伝えようとする気持ちが伝わってきた。
- ・ 他の人の発表を聞き、発想の面白さに気付くことができた。
- ・ 他の人の発表を聞き、もっと聞けるようになりたいという気持ちになった。

3 アンケート調査の分析と考察

授業実践の前後に、英語及び英語の学習に対して、生徒の意識にどのような変容があるかをアンケートにて調査した（資料3及び4）。

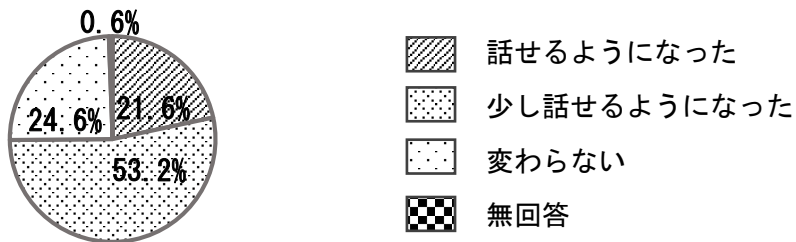
(1) 事前アンケート調査の分析

- ・ 「英語は好きですか」という質問に対して、約3割の生徒が「はい」と答えている一方、約4割の生徒が「いいえ」と答えている。
- ・ ALTに英語で自己紹介ができるか等、数問の質問をしたところ、7割の生徒が「できる」、「まあまあできる」と答えている質問がある一方、約4割の生徒が「あまりできない」、「できない」と答えた質問があった。

(2) 事後アンケート調査の分析

- ・ 「英語が好きですか」という質問に対しては、「はい」と答えた割合は変わらなかったが、「いいえ」が減り、「どちらでもない」が増えた。
- ・ 「ALTに英語で自己紹介をできる」等の質問に対しては、「できる」「まあまあできる」と答えた割合が増え、「できない」「あまりできない」と答えた割合が減った。
- ・ 授業実践後の「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の変容については、7割余りの生徒が「以前よりできるようになった」、「以前より少しできるようになった」と回答した。

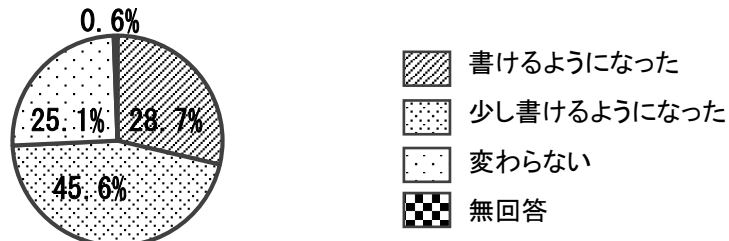
① 今までと比べて、自分の伝えたいことを英語で話せるようになりましたか。(n=171)



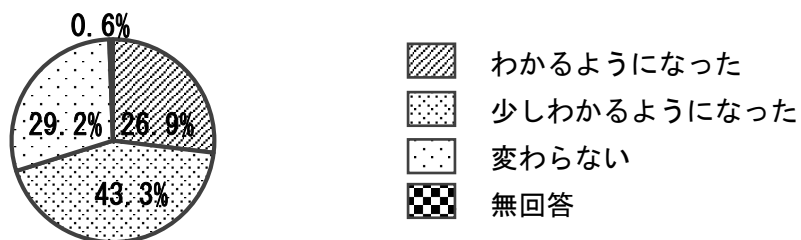
② 今までと比べて、英語を聞いて内容が分かるようになりましたか。(n=171)



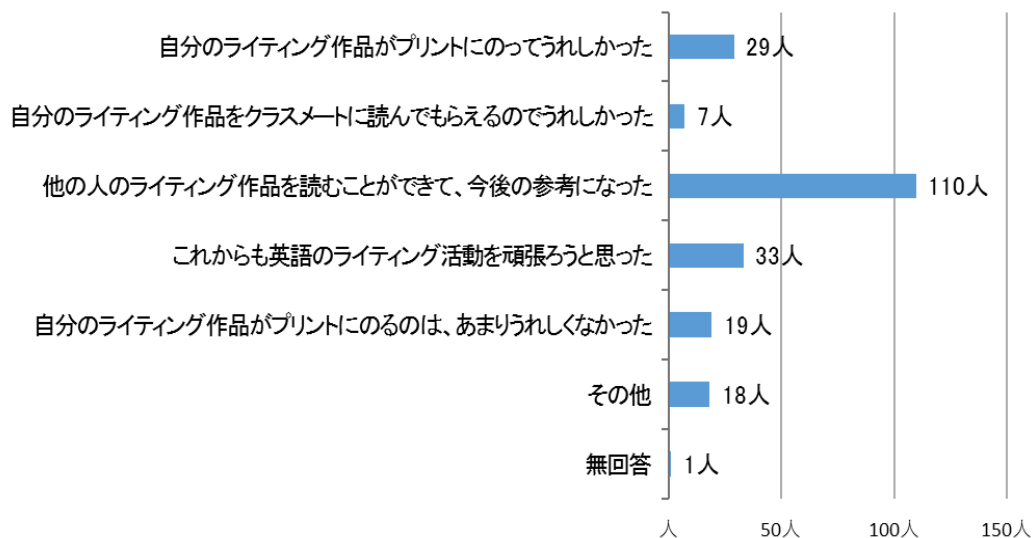
③ 今までと比べて、自分の伝えたいことを英語で書けるようになりましたか。(n=171)



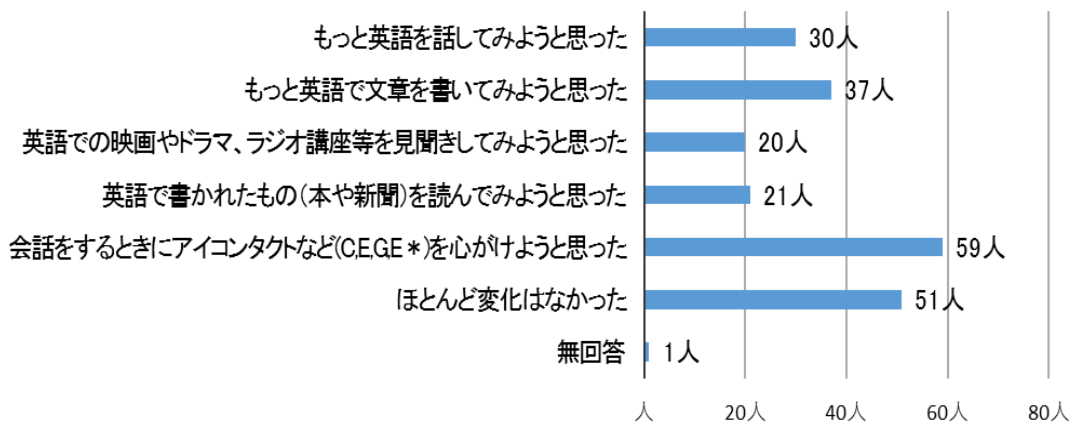
④ 今までと比べて、英文を読んで内容が分かるようになりましたか。(n=171)



⑤ みなさんが英語で書いたライティング作品*をプリントにしましたが、どう思いましたか。(n=171) (複数回答あり) *本文中では、エッセイ



⑥ この授業を受けて、自分の気持ちなどに変化はありましたか。(n=171) (複数回答あり)



*C,E,G,E…clear voice, eye contact, gesture, emotions

(3) アンケート調査の考察

「英語が好きですか」の質問に「いいえ」と答えた割合が減り、「どちらでもない」と答えた割合が増えたこと、「ALTに英語で自己紹介をできる」等の質問に対して、「できる」「まあまあできる」と答えた割合が増え、「できない」「あまりできない」が減ったこと、4技能5領域について7割余りの生徒が筆者の授業実践後に「以前よりできるようになった」と答えていることは、授業実践の中で実際の自分の気持ちや考えを4技能5領域にまたがって表現する言語活動が有効であったと考える。また、他者を配慮しながら完璧な英語ではなくとも互いの伝えたいことを理解し合えることを体感したことがうかがえることから他者とかわる言語活動も有効であったと考える。これらのことは、生徒の次の感想(自由記述)からも分かる。

- ・ 私は書くよりも言う方が苦手なのでスラスラ英語が言えるようにしたい。

- ・ もっと英語について知って、スラスラと話せるようになりたいと思った。
- ・ 英検の体験をして（英検を）受けなくなった。ライティングで自信がついた。
- ・ とても楽しかった。もっと英語を使おうと、話そうと思えた。少し苦手意識が薄れた。
- ・ マインドマップを使って自分のことを結構話せるように（書けるように）なった。
- ・ 前よりも英語が書けるようになったし、話せるようになった。
- ・ 今まで習ってきた文法で、ある程度は会話や作文が書けるという発見ができた。
- ・ 隣の人と交流したりして英語がよく分かるようになった。
- ・ 英語で相手のことを知れたこともあったのでよかった。
- ・ 話し合いをしたりすると、楽しく英単語を覚えることができてよかった。
- ・ もう少し相手の人とアイコンタクトをしたら良かった。声は大きく話せたのでよかった。

なお、アンケート⑥で「ほとんど変化がなかった」と答えている生徒が 51 人いるが、該当生徒の自由記述による感想には、

- ・ 英語は苦手。
- ・ 話すのは難しかった。
- ・ 伝えたいことを書くのは難しかった。
- ・ 自分の気持ちや考えを発表しても、パートナーからコメントがなかったのでエッセイの清書も変化しなかった。

といった内容があり実践内容が難しすぎたり、他者とのかかわりによる活動がうまく機能しなかったりしたことが考えられ、英語力だけでなく他者とのかかわり方にも積み重ねが必要であると考えられる。

VI 研究の成果と課題

本研究では、授業にどのような工夫・改善を行えば、生徒の現在および生涯にわたる日常生活の必要な場面で活用できる英語力を身に付けることができるかを目的とし、15 日間の帯活動で、英検を活用し、他者とのかかわりを持ち 4 技能 5 領域にまたがる言語活動に取り組む授業を行ってきた。その結果次の成果と課題が明らかになった。

1 成果

成果としては次の 3 点があげられる。1 点目は、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の 4 技能 5 領域に関連させながら言語活動を行うことは、各技能を相互に高めていくことができること。2 点目は、他者とのかかわりを大切にした言語活動は、相手のことを考えて発信することや相手からの受信を理解するとともに自分の発信を増幅することにつながる。3 点目は、他者と口頭や文面で互いの気持ちや意見を交わすことで、言語材料や表現を習得することができることが明らかになった。

2 課題

生徒のレディネスには差があり、必要な語彙を見つけることができていたとしても、どのように文を構成していけばよいか分からない生徒もいる。

筆者の約6週間14回の帯活動での授業実践では、この点を解決することはできなかった。一方で、この14回で行った2ラウンドの言語活動の積み重ねと繰り返しで英語での発信力を身に付けた生徒もいる。

協力校では、自力で単語を発音できるようにするためのフォニックス学習、英文の構成を理解するための細やかな説明、スピードアップしながらの教科書本文の音読練習等のインプットの活動について熱心に取り組んでいる。筆者の授業実践で英語力を伸ばした生徒は、それまでのインプットの活動で身に付けてきた力と筆者が行ったアウトプットの活動を含めた4技能5領域にまたがる言語活動がうまく結びついて英語での発信力を向上したり、英語で発信することに興味を感じたりしたと考えられる。言語習得のためにはインプットの活動とアウトプットの活動を通しての4技能5領域にまたがる言語活動をバランスよく取り入れることが大切であると言える。

また、今回の実践授業で成果がみられなかった生徒も含めて、実践期間を延ばした場合どのように英語力が向上していくのかについては、本研究では検証することができなかった。

英検の問題は実生活で使われる英語表現も多く取り扱われている。毎時間の帯活動で、英検の問題を使用し、「聞くこと」であるリスニング問題を「話すこと[発表]」に統合させたり、「読むこと」の問題で取り上げられている内容を「話すこと[やり取り]」や「書くこと」に統合させたりする言語活動を行うことが可能である。これらの言語活動は、英字新聞や英語で書かれた広告、パンフレット等を活用して実践を行うこともできる。そうすれば、教科書で学習した言語材料が実生活でどのように使われているのかを認識することができ、定着につながりやすくなる。このような言語活動を、年間を通して行い、生徒の英語力がどのように変容していくのかを検証することが、今後の研究の課題としてあげられる。

VII 引用・参考文献

引用文献

- 金沢市中教研英語部会『4技能の総合的な育成を目指した授業づくり～金沢型学習スタイルをベースにした統合型の言語活動～』平成30年度第42回東海北陸公立中学校英語教育研究会（石川大会）全体会資料（2018）
- 滝沢雄一『これから求められるコミュニケーション能力の育成ーコミュニケーションの本質をとらえてー』平成30年度第42回東海北陸公立中学校英語教育研究会（石川大会）講演会および全体会資料（2018）
- 日本英語検定協会 英検Can-doリスト一覧
<http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/cando/list.html>（2018.5.11参照）
- 日本英語検定協会『英検過去問題5級2017年度第1回』
- 日本英語検定協会『英検過去問題5級2017年度第2回』
- 日本英語検定協会『英検過去問題3級2017年度第3回』
- 日本英語検定協会『Dr. Writeの英検3級ライティングテストに挑戦！step1』
https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/grade_3/pdf/DrWrite_grade3.pdf
（2018.8.16参照）

- 日本英語検定協会『5級スピーキングテスト問題見本』
<http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/4s5s/exam.html> (2018.5.11参照)
- 日本英語検定協会『4級スピーキングテスト問題見本』
<http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/4s5s/exam.html> (2018.5.11参照)
- ブリティッシュカウンシル『CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)』
<https://www.britishcouncil.jp/sites/default/files/ees-cefr-jp.pdf> (2018.5.11参照)
- 村野井仁『アウトプットと第二言語習得』東北学院大学論集英語英文学(95) 51-64(2011)
- 文部科学省「第3期教育振興基本計画」
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1406127.htm (2018.7.11参照)
- 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』
- 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』
- 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』(2018)
- 文部科学省『生徒の英語力向上推進プラン』(2015)
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2015/07/21/1358906_01_1.pdf (2018.4.27参照)

参考文献

- 『NEW HORIZON English Course 1』東京書籍(2015年検定済)
- 『NEW HORIZON English Course 2』東京書籍(2015年検定済)
- クリス・フォスケット・沢田淳子『マインドマップ 英語勉強法』サンマーク出版(2010)
- 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』(2016)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
 (2018.4.27参照)
- 津市教育委員会『津市教育振興ビジョン』(2018)
- 文部科学省「英語教育実施状況調査」(2018)
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1403468.htm(2018.4.27参照)
- 山田誠志『これからの外国語(英語)教育の在り方～中学校外国語(英語)教育の果たすべき役割～』全英連会誌第56号 7-13(2018)

Ⅶ 資料

(資料1)

ウォームアップの「会話練習」に使用したプリント

Questions and Answers				
Class No. Name				
No.		A	B	
□□□	0	こんにちは	Hello. / Hi.	Hello. / Hi. こんにちは。
□□□	1	私はタロウです。 よろしく。	I'm [Taro]. Nice to meet you.	I'm [Hanako]. Nice to meet you, too. 私はハナコです。 こちらこそ、よろしく。
□□□	2	元気ですか。	How are you?	I'm [great / good / OK]. I'm [hungry / sleepy / ...]. 元気です。 [空腹/眠い]です。
□□□	3	あなたはどちらの出身ですか	Where are you from?	I'm from [Tsu / Mie / Japan / ...]. [津/三重/日本]の出身です。
□□□	4	あなたは何歳ですか。	How old are you?	I'm [13/14] years old. [13/14]歳です。
□□□	5	誕生日はいつですか。	When is your birthday?	My birthday is [August 19th]. 私の誕生日は[8月19日]です。
□□□	6	あなたは学生ですか。	Are you a student?	Yes, I am. _____ はい、そうです。
□□□	7	寿司が好きですか。	Do you like [sushi]?	Yes, I do. _____ No, I don't. _____ はい、好きです。 いいえ、好きではありません。
□□□	8	どんなスポーツが好きですか。	What [sports] do you like?	I like [tennis]. _____ [テニス]が好きです。
□□□	9	(たいてい)何時に起きますか。	What time do you (usually) [get up]?	I (usually) [get up] at [6 / 7:30 / ...]. _____。 (たいてい) [6/7時半]に起きます。
□□□	10	こちらは池江璃花子です。 彼女を知っていますか。	This is [Ikee Rikako]. Do you know [her]?	Yes, I do. _____ No, I don't. _____ はい、知っています。 いいえ、知りません。
□□□	100	おしゃべりがとう。	Thank you for talking.	Thank you. See you. こちらこそ、またね。

(資料2)

ウォームアップの「生徒用クラスルームイングリッシュ」に使用したプリント

Classroom English に慣れよう！ 英語をいっぱい使おう！ Part 1			Classroom English に慣れよう！ 英語をいっぱい使おう！ Part 2		
Class No. Name			Class No. Name		
伝える 1 (先生に)			伝える 2 (先生に・仲間)		
□	1	～先生！	○	21	はい(と物を探す)。
		Mr. ～! (男性の先生)			Here you are.
		Ms. ～! (女性の先生)	○	22	わかった!
					Got it! / I got it! / I see.
	2	すみません。遅れました。	○	23	わかりません。(知らないとき)
		I'm sorry, I'm late.			I don't know.
○	3	(紙が)1枚足りません。	○	24	わかりません。(内容がわからないとき)
		One more (sheet), please.			I don't understand.
○	4	紙が余りました。	○	25	がんばって!
		Extra paper. / Here's an extra.			Good luck!
○	5	白紙です(印刷されていません)。	○	26	私の番だ。
		My paper is blank.			It's my turn.
○	6	相手がいません。	○	27	あなたの番だよ。
		I don't have a partner.			It's your turn.
○	7	やってみてください。	28	次はだれ?	
		I want to try.			Who's next?
○	8	来てください。	29	気にしないで。心配しないで。	
		Please come here.			Don't worry.
○	9	終わりました。	30	むずかしい～。きつい～。	
		Finished. / Done.			It's difficult. / It's hard work.
	10	宿題するのを忘れました。	31	簡単!	
		I forgot to do my homework.			It's easy!
	11	質問があります。	尋ねる・質問する		
		I have a question.	○	32	何ページですか。
	12	あと〇分ほしいです。			What page?
		Give me ○ more minutes.	○	33	何をやるの?
					What should we do?
頼む・依頼する			○	34	なんで～? なぜですか。
○	13	ちょっと待ってください。			Why?
		Just a moment, please.	○	35	あっていますか。これでいいですか。
○	14	もう一回お願いします。			Is this (all) right?
		One more time, please.	○	36	違いますか。
○	15	辞書を借りてもいいですか。			Is this different?
		Can I borrow a dictionary?	37	～は英語でなんと書きますか。	
○	16	ドアを閉めても[開けても]いいですか。			How do you say ～ in English?
		May I close [open] the door?	38	どう綴り(スペル)ですか。	
○	17	ヒントをくれませんか。			How do you spell it?
		Can you give me a hint?	39	この単語の意味はなに?	
○	18	黒板に書いていただけませんか。			What does this word mean?
		Could you write it on the board?	40	どういう意味ですか。	
	19	ゆっくり[大きく]話してください。			What do you mean?
		Please speak slowly [louder].			
	20	もう一回言ってください。			
		Pardon? / Say that again, please.			

作成参考資料

○愛知県総合教育センター

『Classroom English (教室英語集) -授業を英語で行うための表現集-』

○高知県教育センター『Let's Speak English!』(2014)

○瀧沢広人『中学生のためのすらすら英会話100』明治図書(2013)

○本多俊幸『若手英語教師のためのよい授業をつくる30章』教育出版(2011)

(資料3)

事前アンケート

英語に関するアンケート
(2019年7月) 組 番 名前 _____

英語を学習していて、感じていることや思っていることを教えてください。ご協力お願いします。

1 英語は好きですか。
1 はい 2 いいえ 3 どちらでもない

2 次のことで当てはまるものに○をつけてください。
(1) 先生やALTが英語で話すことを理解できる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(2) 教科書やリスニングテストの英語を聞いて内容を理解できる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(3) ALTに、英語で自己紹介を言うことができる(名前、好きなことや普段の生活などについて)
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(4) ALTに道を聞かれたら、自分が知っている場所であれば、道順を英語で伝えることができる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(5) ALTに英語で頼んだり、ALTに英語で頼まれたときに英語で返事したりすることができる(“頼む”とは、「手伝ってください」や「ドアを開けてくれますか」等のことです)
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(6) 1年生の教科書に出てきた英単語を日本語に変換することができる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(7) 日本語を見て、1年生の教科書に出てきた英単語を書くことができる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(8) 英語で、自己紹介や普段の生活について3文以上書くことができる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

(9) この前学期で全員で受けた英検の問題は簡単だった
1 簡単だった 2 やや簡単だった 3 やや難しかった 4 難しかった

3 次の英語に関する試験の中で聞いたことがあるものに○をつけてください。
1 英検 2 TOEIC (1-700) 3 TOEFL (1-700)
4 GTEC (1-700) 5 ケンブリッジ英検 6 その他 ()

4 「英検」を受けたことがありますか。
1 ある 2 ない
⇒ 質問5と7へ ⇒ 質問6と7へ

5 「英検」は何級をもらっていますか。
1 5級 2 4級 3 3級 4 準2級
5 2級 6 準1級 7 1級

6 「英検」を受けていない理由は何ですか(一つ選んでください)。
1 興味がなかった 2 受験料を払うから 3 合格するかどうかわからないから
4 その他 ()

7 「英検」を受けたいと思いますか。
1 思う 2 思わない

(資料4)

事後アンケート

(注) ライティング作品：本文中ではエッセイ

英語に関するアンケート
組 番 名前 _____

英語を学習していて、感じていることや思っていることを教えてください。

★1 英語は好きですか。
1 はい 2 いいえ 3 どちらでもない

★2 次のことで当てはまるものに○をつけてください。
1 先生やALTが英語で話すことを理解できる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

2 教科書やリスニングテストの英語を聞いて内容を理解できる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

3 ALTに、英語で自己紹介を言うことができる(名前、好きなことや普段の生活などについて)
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

4 ALTに英語で頼んだり、ALTに英語で頼まれたときに英語で返事したりすることができる(“頼む”とは、「手伝ってください」や「ドアを開けてくれますか」等のことです)
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

5 1年生の教科書に出てきた英単語を日本語に変換することができる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

6 日本語を見て、1年生の教科書に出てきた英単語を書くことができる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

7 英語で、自己紹介や普段の生活について3文以上書くことができる
1 できる 2 まあまあできる 3 あまりできない 4 できない

8 「英検」は何級をもらっていますか。
(1) 5級 (2) 4級 (3) 3級 (4) 準2級 (5) 2級 (6) 準1級 (7) 1級 (8) 受けていない

9 「英検」を受けたいと思いますか。
受けたことがある人はこれからも受けたいと思いますか。
1 思う 2 思わない

★3 三山先生の授業では、次のことに取り組みました。意見や感想を聞かせてください。

一言トークやマインドマップを使って自分の気持ちを英語で話す。
・相手が伝えたいことを英語で聞いて理解する。
・マインドマップを使って、自分が伝えたいことを英語で書く。
・相手が伝えたいことを英語で読んで理解する。
・「ペアワーク(青い紙でのペアワーク、面接練習)やクラス・イングリッシュで英語での対話に慣れる。

1 今までと比べて、自分の伝えたいことを英語で話せるようになりましたか。
1 話せるようになった 2 少し話せるようになった 3 変わらない

2 今までと比べて、英語を聞いて内容がわかるようになりましたか。
1 わかるようになった 2 少しわかるようになった 3 変わらない

3 今までと比べて、自分の伝えたいことを英語で書けるようになりましたか。
1 書けるようになった 2 少し書けるようになった 3 変わらない

4 今までと比べて、英文を読んで内容がわかるようになりましたか。
1 わかるようになった 2 少しわかるようになった 3 変わらない

5 みなさんが英語で書いたライティング作品をプリントにしましたが、どう思いましたか。(複数回答可)
1 自分のライティング作品がプリントにのってうれしかった。
2 自分のライティング作品をクラスメートに読んでもらえるのがうれしかった。
3 他の人のライティング作品を読むことができて、今後の参考になった。
4 これからも英語のライティング活動を頑張ろうと思った。
5 自分のライティング作品がプリントにのるのは、あまりうれしくなかった。
6 その他 ()

6 先生の授業で、自分の気持ちなどに変化はありましたか。
1 もっと英語を話してみようと思った。
2 もっと英語で文章を書いてみようと思った。
3 英語での映画やドラマ、ラジオ講座等を見聞きしてみようと思った。
4 英語で書かれたもの(本や新聞)を読んでみようと思った。
5 会話をするときにアイコンタクトなど(C,E,G,E)を心がけようと思った。
6 ほとんど変化はなかった。 clear voice, eye contact, gesture, emotions

7 授業全体の感想を書いてください。